

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の参加状況

第2学年	国語	132人	社会	132人	数学	132人
	理科	132人	英語	132人		

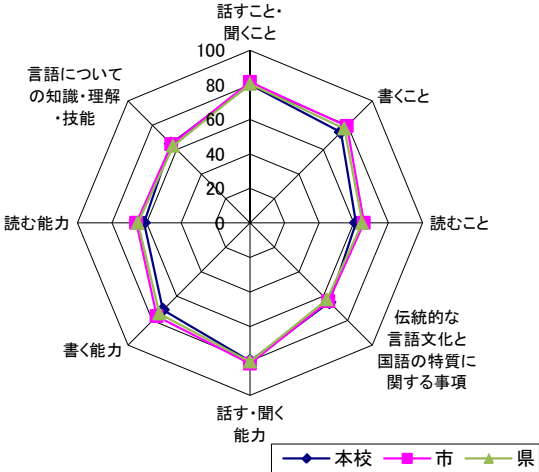
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.1	81.6	80.5
	書くこと	74.3	79.4	77.2
	読むこと	61.4	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.1	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	80.1	81.6	80.5
	書く能力	71.3	76.4	74.3
	読む能力	61.4	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	64.8	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

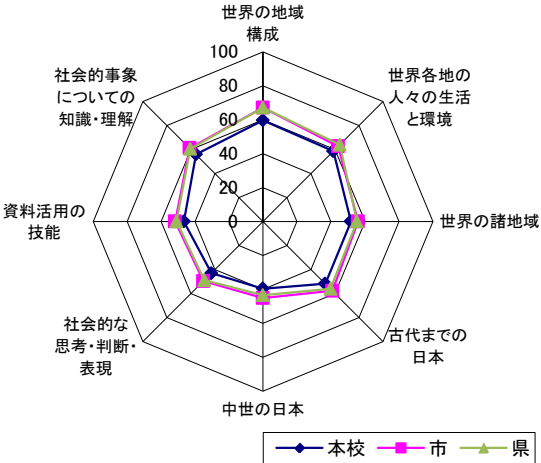
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の内容を正確に聞き取る問題や話の構成や話し方の工夫の理解を問う問題では市や県の平均を上回っている。 ●話し合いの中で質問の内容を正確に聞き取り、それに対する適切な発言を問う問題では、県や市の平均を下回り、正答率の57.8%と低かった。	・話し合い活動の場面を効果的に設定していく。ただ、話し合いをさせるのではなく、何ができればよいのかということを確認して活動に取り組む。
書くこと	○自分の立場を明確にして、根拠を示して書く問題では正答率が80%を超え、市や県の平均とほぼ同じだった。 ●3段落構成という条件で書く問題では、正答率が57.8%で県や市を下回った。	・書くことの場面設定が全体的に足りていない。小作文に取り組む機会を設けていく。また、条件に沿った文章が書けるように、型やモデルを示すなど、指導を工夫していく。
読むこと	○文脈に即して語句の意味を的確に捉える問題では、市や県の平均を上回った。 ●文学作品の問題は、どの設問も市や県の平均を下回った。特に、行動・心情・情景描写に注意して登場人物の様子を読み取る問題は正答率が57.8%と低かった。	・文学的文章を読むときに、どの文章にも対応できるように読み取り方を指導していく。漠然とあらすじをなぞるのではなく、行動・心情・情景描写を注意深く読み抜く力を養っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文法・語句に関する知識を問う問題では、市や県の平均を上回った。 ●漢字の読み書きについては、定着している漢字とそうでない漢字がはっきりしている。	・普段の授業から、既習漢字を使って文章を書くように指導していく。また、小テストを行ったり、辞書を引かせたりして、正しく習得できるように指導を工夫していく。

宇都宮市立国本中学校第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	59.6	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	58.5	62.6	63.9
	世界の諸地域	51.7	55.9	55.3
	古代までの日本	51.8	57.8	56.2
	中世の日本	39.6	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	43.1	49.7	48.9
	資料活用・技能	46.6	51.8	51.0
	社会的な思考・判断・表現	55.9	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

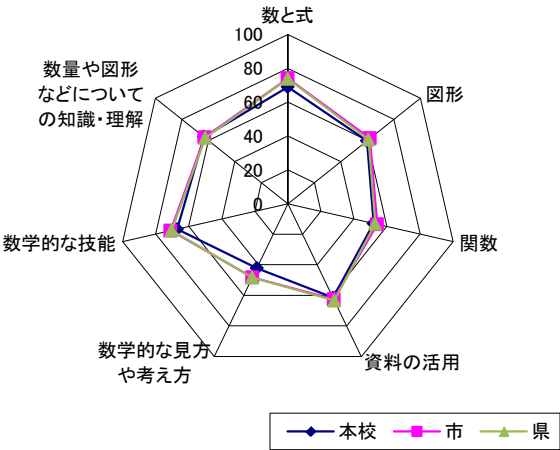
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の海洋の分布や地域区分については、きちんと理解している生徒が多い。 ●世界の主な国の名称と位置については、市の平均を大きく下回っている。 ●地図を活用する問題では正答率が大きく低下する。	・地図の読み取りの技能を高めるために、授業内で地図帳を活用し、地図に慣れるようにさせ、苦手意識を取り除くようにする。世界の国々の名称や位置も、調べ学習を通して体験的にとらえられるようにしていく。
世界各地の人々の生活と環境	○世界の主な宗教の分布についてはしっかりと理解しており、市・県の平均を共に上回っている。 ●雨温図から読み取ったことを記述する問題の正答率が低い。	・グラフの読み取りについては、グラフを比較し、違いを発見させるなど自ら気づくようにさせたい。また、文章記述の問題では、要点を押さえてまとめていけるよう指導していきたい。
世界の諸地域	○アジア州については県・市の平均と大きな差はない。 ●南アメリカ州の自然の特色について解答する問題では、市・県の平均を大きく下回っている。 ●資料を読み取る問題については正答率が大きく低下する。	・それぞれの州にはさまざまな特徴があることを押さえ、小テストなどを活用して、知識の習得や資料を活用する力を身につけさせたい。
古代までの日本	○世界の古代文明の特色についてはきちんと理解できている生徒が多い。 ○平安時代の人物などに関する理解は市・県の平均よりも高く、しっかりと定着している。 ●奈良時代までの歴史の流れをつかめていない。	・年表を利用し、歴史の流れをつかむようにさせたい。また、完答を求められる問題では一方は正解しているが、もう一方が誤っているケースが多く見られるので、小テストで知識の定着を図り、学力の向上を目指したい。
中世の日本	○鎌倉仏教の宗派への理解については、県の平均を上回った。 ●資料の要点を押さえ、文章で記述する問題については正答率が大きく低下する。	・資料から読み取れることを文章で記述できるよう、資料に慣れさせたい。そのために教科書や資料集を活用し、わかることを記述するよう、ワークシートなどを工夫して作成したい。

宇都宮市立国本中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	69.0	74.1	73.8
	図形	59.7	62.0	60.9
	関数	51.9	54.1	52.9
	資料の活用	61.6	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	42.2	48.2	48.3
	数学的な技能	67.1	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	63.4	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

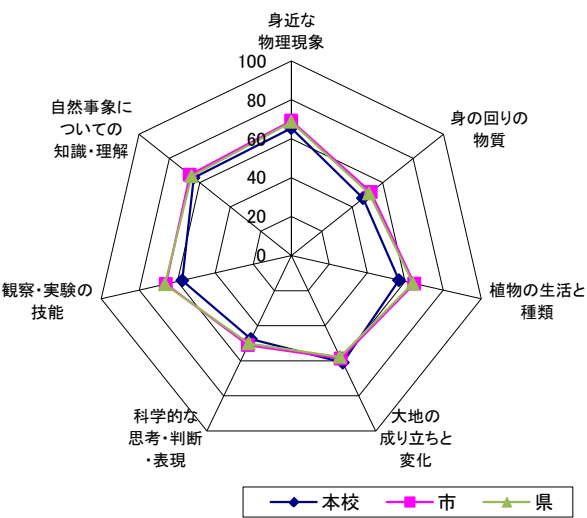
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基本的な計算問題は正答率が比較的高い ●計算の中で符号を変えたり、分配法則などが入ってくると単純なミスが目立つ。	・問題演習の時間が全体的に足りていないように思う。反復練習をすることによって、四則混合の計算や方程式の正答率は少しずつ上がってくると考える。演習時間を増やして指導にあたりたい。
図形	○知識の部分では市の平均を上回っている。 ●角度を求める問題や作図をする問題など技能的な問題が市の平均を下回ってしまった。	・「数と式」と同様に問題演習の時間が全体的に足りていないように思う。知識を利用しながらの演習問題に取り組ませ指導にあたりたい。
関数	●全体的に関数についての苦手意識があるのか市の平均を下回ってしまった。	・単純な座標を読み取る問題も正答率が高くない。2年次には一次関数の部分で1学年の復習をしながら授業に取り組んだ。その都度、1年の内容の確認をしながら授業をする必要がある。
資料の活用	○知識の部分では市の平均を上回っている。 ●資料から読み取りそれを数学的に表現する力が少し弱い。	・普段の授業からの生徒の発言を積極的に取り入れ、読解力とコミュニケーション力を付けられるよう指導していきたい。

宇都宮市立国本中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	65.4	69.2	68.6
	身の回りの物質	47.2	52.2	51.1
	植物の生活と種類	56.8	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	61.0	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	47.6	51.1	50.1
	観察・実験の技能	57.4	66.0	66.5
	自然現象についての知識・理解	64.1	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

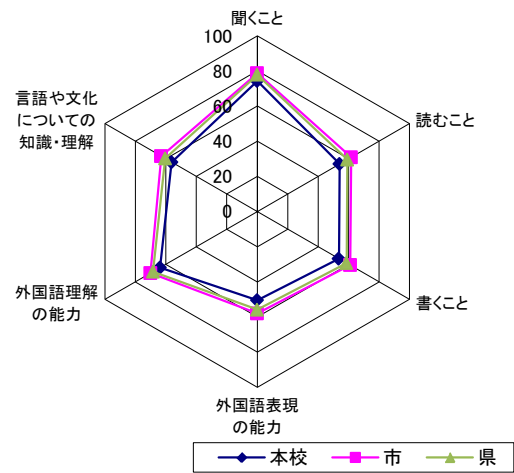
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○レンズを通過した光の進み方と、それによってできる像についての理解度は比較的高い。 ●グラフの読み取りや、圧力と面積との関係についての理解度が低い。	実験結果の表現方法としてグラフを積極的に取り入れることで、グラフに慣れ、苦手意識を取り除いていきたい。また、圧力と面積との関係については、実験や実習を通して知識としてではなく、感覚としても理解できるよう指導していきたい。
身の回りの物質	○ガスバーナーの正しい使い方をよく習得している。 ●気体を発生させる方法と、気体の性質についての理解が市の平均を大きく下回っている。	気体の発生する実験を行う際に、「気体が発生した」ことだけを確認するのではなく、「発生した気体はどのような性質をもっているのか?」「どのような反応から気体を特定できるのか?」について確実におさえて指導していきたい。
植物の生活と種類	○植物のつくりと、それによる分類についての理解度は比較的高い。 ●顕微鏡の使い方の習得率が、市の平均に比べて大きく下回っている。	顕微鏡を使用する際に、操作手順を確認する小テストを作成し、それに取り組みせると同時に、グループごとに確認しながら観察に取り組ませることで顕微鏡の正しい使用法の習得をはかりたい。
大地の成り立ちと変化	○地震の震度やマグニチュード、火成岩についての理解は市の平均を上回っている。 ●堆積岩についての理解度は市の平均を下回っている。	教師の話を聞いただけでなく、砂や石が体積する様子について簡単な実験装置などをを用いて実際に見ることで、堆積岩のできる場所や、それによってことなる粒の大きさについての学習の定着をはかりたい。

宇都宮市立国本中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	74.2	78.7	77.8
	読むこと	54.1	61.7	59.2
	書くこと	53.6	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	50.4	57.9	55.8
	外国語理解の能力	63.8	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	56.2	63.0	60.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○待ちあわせ場所を聞き取る問題で、市や県の平均を上回っている。また、対話文の聞き取りについては、動作や時刻、曜日、物の位置、大きさや数について聞く問題で、市や県の平均とほぼ同じである。 ●待ちあわせ時刻を聞き取る問題や、対話文の聞き取りと応答について、市や県の平均を下回っている。	・さまざまな対話文に慣れさせ、生徒同士の対話活動をより多く取り入れながら、適切な応答の仕方が出来るように指導する。
読むこと	○文法の理解で、命令文を理解しているかどうかについて、市や県の平均を上回っている。 ●文法の理解で、be動詞の疑問文、一般動詞の疑問文については、市や県の平均を下回っている。また、まとまりのある英文の読み取り、手紙文の読み取りでは、市や県の平均を下回るところがある。	・文法を用いた会話活動を取り入れ、会話表現の中で文法を理解出来るように指導する。また、長文の読み取り活動を多くとり入れる。
書くこと	○テーマに基づく英作文では、市や県の平均とほぼ同じである。また、語順の理解では、疑問詞whereやwhoを用いた文の構造への理解、一般動詞の否定文への理解が、市や県の平均とほぼ同じである。 ●場面や条件に応じた英作文では、相手に依頼したり、相手を誘う場面において、市や県の平均を下回っている。 また、語順の理解では、listen toの理解において、市や県の平均を下回っている。	・語順ドリルを多く行い、基礎的な英文を定着させる。また、さまざまな場面や条件に対応した英作文が書けるように練習をしていく。

宇都宮市立国本中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

- 宿題に関する質問で、「家で学校の宿題をしている。」「学校の宿題は自分のためになっている。」について、肯定率が、市、県に対しても95%、90%を超える高ポイントである。
- 授業については、「授業を集中して受けている。」が、90%を超える高ポイントである。
- 「近所の人に会ったときは、あいさつをしている。」が、90%を超える高ポイントである。
- 好きな学習は、国語、音楽、美術、技術家庭、保健体育、道徳、総合的な学習の時間、学級活動が高ポイントである。
- 将来のために大切だと思っている科目では、国語、保健体育、道徳で、特に国語のポイントが、99.2%と高い。
- 読書時間や本の冊数は、市、県と比べても高ポイントである。
- 家庭学習について、「家でテストで間違えた問題について勉強をしている。」「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」は、51.2%と県、市と比べても低い。また、「家で勉強をするときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」については、48.8%と低い。
- 「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。」は、36.2%。「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」は、44.9%でどちらも低い。
- 「テレビ、ビデオ、DVDなどを見たり、聞いたりしている時間が、市、県と比べて多い。
- 「テレビゲーム、スマートフォン、メールをしている時間が、市、県と比べて多い。
- 新聞を読んでいる生徒が市、県と比べて少ない。